

## 令和5年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

### 県北会場

#### 科目 ⑧放課後児童クラブに通う子どもの育成支援

- ◆ 子どもが自ら「学童に行きたい」と思えるよう、支援員・保護者・地域との連携がとても大切だと再確認できました。遊びの援助だけでなく、心の状態や体調の変化など日々の様子を丁寧に見ることを忘れてはならないと感じました。また、悩みや相談事を話せたり、ほっとすると感じられる環境を作れるよう、子どもの言葉を大切にし、言語化されていない思いも汲み取ることのできる支援員を目指したいです。
- ◆ 子どもが自ら放課後児童クラブに通い続けられるように援助するという観点から、保護者が労働等で授業終了後の養育ができないということを子どもにしっかり理解してもらえるようにしていくことも必要だと思いました。保護者と支援員の連携を密に図り、家と放課後児童クラブでの様子を共有できるよう信頼関係をつくっていきたいです。
- ◆ 育成支援の記録と職場内での事例検討の必要性が最重要と思います。子どもの様子を記録→内容の共有→保管（取扱注意）といった流れは、子どもへの理解を深めることに役立ち、育成支援の内容を充実させます。子どもの来所時の様子やいつもと異なる変化に気付くことが大事だと思いました。子どもたちは自身の心身の状態の変化に気付いていないことがあり、職員が細やかに目配りしていかななくてはと思いました。
- ◆ 放課後児童クラブは毎日同じ空間でも、子どもにいつもと違った様子がないか気付くことは子どもが安心して過ごせることに繋がると思いますので、下校後の子どもと交わす挨拶や表情を見ることは大事にしています。子どもの出欠席についてもこれまでどおり状況を把握して速やかな対応を継続し、異学年が集団で過ごす上での分担や決まり事を子どもが理解できる援助を心がけたいです。
- ◆ 放課後児童支援員を「エッセンシャルワーカー」だと認識してもらえるようになったのは、とてもよいことだと思います。そして、私が今回心に残ったのは、ケンカの終息は相手がなぜ怒ったのかを考え、仲直りの手段を学んでいくということです。私はケンカが起こった時、「早くとめなければ」と動いていましたが、ただ単にケンカは良くないと結論付けるのは早かったかもしれません。子どもたち自身で解決できるようにするのも支援員の務めなのかもしれないと思いました。